

横浜市西部地域における双方向病診連携システムを用いた COPD 管理  
の実態

○村岡弘海 1)2) 粒来崇博 1)2) 駒瀬裕子 1) 金子省太郎 1)2) 田中  
智士 1)2) 西田真 1)2) 上野純子 1)2) 松島綾 1)2) 篠崎勇輔  
1)2)、西山和宏 1)2)、西由紘 1)2)、沼田雄 1)2)、鶴岡一 1)2)、大山  
バク 1)2)、檜田直也 1)、峯下昌道 2)、井上健男 1)

1)聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院呼吸器内科

2)聖マリアンナ医科大学呼吸器内科学

責任著者姓名

粒来崇博 (つぶらいたかひろ) Takahiro Tsuburai

## 要旨

横浜市西部地域では双方向病診連携システムを構築して COPD 管理を行っているが、継続状況に対する報告はない。2013 年 1 月から 2020 年 3 月に当院で COPD 病診連携で受診したうち、114 例を検出した。52 施設と連携し、I 期、II 期の軽症者が 98 例（85.9%）であった。開始 2 年時点で継続 54 例（47.3%）、終了 29 例（25.4%）、脱落 31 例（27.2%）であった。COPD は喘息に比べ増悪による入院と合併症のため継続困難になる頻度が高く、注意すべきと考えられた。

キーワード 慢性閉塞性肺疾患 病診連携

短縮表題：横浜市西部地域のCOPD病診連携

Key word: chronic obstructive pulmonary disease, coordinated care system